

安全データシート

作成日：2012年01月13日

改訂日：2016年02月01日

1. 製品及び会社情報

製品名 : KRK ノンモルトンローラー洗浄剤 ECO
 会社名 : 株式会社 此花
 住所 : 大阪市天王寺区石ヶ辻 10 番 2 号
 担当 :
 電話番号 : 06-6772-0471 (代)
 FAX 番号 : 06-6772-3793
 緊急連絡先 : 同上
 整理番号 : 162

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分 3
健康有害性	急性毒性 (経口)	区分外
	急性毒性 (経皮)	区分外
	急性毒性 (吸入: 気体)	区分外
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	区分外
	急性毒性 (吸入: 粉塵 及び ミスト)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷 / 眼刺激性	区分 2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
環境有害性	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器 (単回暴露)	区分 3
	特定標的臓器 (反復暴露)	区分 2
	吸引性呼吸器有害性	区分 1
	水生環境有害性 (急性)	区分 1
	水生環境有害性 (慢性)	区分 1

改訂日：2016.02.01

GHS ラベル要素

絵表示：



注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 引火性液体及び蒸気
皮膚刺激
強い眼刺激
呼吸器への刺激のおそれまたは眠気またはめまいのおそれ
長期にわたる、または反復暴露による臓器の障害のおそれ
飲み込んで気道に進入すると生命に危険のおそれ
水生生物に非常に強い毒性
長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

- 容器を密閉しておくこと。
- 熱・火花・高温物体のような着火源から遠ざけること。
- 保護手袋・保護眼鏡・保護マスクを着用すること。
- 取扱後は手をよく洗うこと。
- ミスト・蒸気を吸入しないこと。
- 環境への放出を避けること。

応急措置

- 眼に入った場合は直ちに多量の水で 15 分以上洗い、眼科の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合は水でよく口の中を洗浄し直ちに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合は直ちに汚染された衣服や靴等を脱がせ、付着部を石鹼水で洗浄し多量の水で洗い流す。もし皮膚に炎症を生じた場合は医師の手当てを受ける。

保管

- 直射日光を避け、換気の良い場所で、施錠をして保管すること。

廃棄

- 内容物や容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託する。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

化学名	含有量 (%)	化学式	官報公示 No (化審法)	CAS No
鉱油*	30~40	—	—	—

*労働安全衛生法：通知対象物

毒劇物法の該否 : 該当しない

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 大量に吸入したら直ちに空気の新鮮な場所に移動させる。体を毛布等で覆い保温して安静に務め、速やかに医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに水・温水等で洗い流した後、石鹼でよく洗い落とす。もし皮膚に炎症を生じた場合は医師の手当てを受ける。
- 眼に入った場合 : 直ちに清浄な流水で 15 分以上洗眼し眼科医の手当てを受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水で口内を洗浄する。可能であれば喉に指を差し込んで吐き出させ直ちに医師の手当てを受ける。
- 応急措置をする者の保護 : 救済者は保護具を着用する。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 二酸化炭素、泡、粉末、炭酸ガス、耐アルコール性泡消火剤
- 使ってはならない消火剤 : 棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。
- 特定の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち消火剤を用いて風上より消火する。移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。周囲の設備等には散水し冷却する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、
保護具及び緊急時措置 : 作業には、必ず適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
漏洩していても火災が発生していない場合、立入る際は、密閉性の高い不浸透性の保護具を着用する。
直ちに全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離し、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。
- 封じ込め及び
浄化の方法及び機材 : 全ての着火源を速やかに取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。
危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
室内で漏出した場合は、窓、ドアを開け十分に換気を行う。
少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させ回収する。
大量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、液面を泡で覆い容器等に回収する。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除くと共に消火剤を準備する。床を濡れた状態で放置すると滑りやすく、スリップ事故の原因となるため注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 『8.暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気 : 『8.暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気・全体換気をする。

安全取扱い注意事項 : 全ての安全注意書を読み、理解するまで取扱わない事。
取扱い場所で使用する電気機器は、防爆構造とし機器類は静電気対策を講じる。

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

流動によって静電気が発生する場合があるので、出し入れの容器にはアースを取ること。

換気の良い場所で取扱うこと。

接触回避 : 『10.安定性及び反応性』を参照。

保管

適切な保管条件 : 危険物の表示をして保管する。

屋内の通気のよい場所で容器を密閉し保管し、火気熱源から遠ざける。

容器を密閉し、保管場所に施錠をすること。

避けるべき保管条件 : 熱、スパーク、火災ならびに静電気蓄積を避ける。

技術的対策 : 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。

安全な容器包装材料 : 容器に圧力をかけない。破壊することがある。

容器は溶接、加熱、穴あけ又は切断しない。爆発を伴って残留物が発火することがある。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策 : 屋内作業所で使用の場合は発生源の密閉化又は全体換気装置を設置する。

管理濃度 : 設定されていない (該当物質を含まない)

許容濃度 : 設定されていない

保護具

呼吸器用の保護具 : 必要により有機溶剤用防毒マスク等を使用する。

手の保護具 : ゴム手袋等耐油性の保護手袋を着用する。

眼の保護具 : ゴーグル型、全面型等の保護眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具 : 帯電防止性能を有する長袖保護衣及び安全靴を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状 : 液体

色 : 無色透明

臭い : わずかに固有の臭い

pH : データなし

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲

沸点 : データなし

分解温度 : データなし

引火点 : 46°C

発火点 : データなし

蒸気圧 : データなし

比重 : 0.90

溶解度 : 水、油に一部溶解

10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の保管取扱い条件では安定。

反応性 : 自己反応性なし。

強酸化剤と接触すると反応する可能性がある。

避けるべき条件 : 強酸化剤との接触を避ける。

危険有害な分解生成物 : 燃焼等により一酸化炭素等が発生する可能性がある。

11. 有害情報

皮膚腐食性・刺激性 :

- ・基油について、ウサギの皮膚に4時間適用した試験において中程度の刺激性および軽度の浮腫が認められたとの記述がある。混合物については、混合物の分類に基づき危険有害性を区分2と分類した。

眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 :

- ・ボランティアに基油の蒸気を暴露する試験 (SIDS (2001)、ACGIH (2001)、IRIS (2005)、PATTY (1994)) で高濃度では強い眼刺激が認められたが、回復の速さについては記述がないため、区分2Aとした。

特定標的臓器・全身毒性(単回暴露) :

- ・基油について、ラットまたはイヌを用いた吸入暴露試験において活動性の低下、運動失調、振戦、痙攣などの一過性の神経系への影響を示唆する症状が認められていない。混合物については、混合物の分類に基づき危険有害性を区分3と分類した。

特定標的臓器・全身毒性(反復暴露) :

- ・基油について、モルモットを用いた吸入暴露試験において肝臓への影響が区分2のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記述がある。混合物については、混合物の分類に基づき危険有害性を区分2と分類した。

吸引性呼吸器有害性 :

- ・炭化水素であって、かつ動粘性率が20°Cで約0.95mm²/s (粘性率 / 密度=0.732(mPas)/0.7694 (g/cm³)) であり、40°Cでの動粘性率は20.5mm²/s以下であると考えられる。

飲み込んで気道に進入すると生命に危険のおそれ (区分1)

12. 環境影響情報

水生環境有害性 (急性)

- ・甲殻類(オオミジンコ)48時間LC50 0.42-2.3mg/L (基油) 混合物については、混合物の分類に基

づき危険有害性を区分1と分類した。

水生環境有害性（慢性）

- ・基油についての有用な情報なし。混合物については、混合物の分類に基づき危険有害性を区分1と分類した。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物の収集運搬業者や処理業者と契約し、
廃棄物処理法及び関係法規・法令を遵守して、適正に処理する。

汚染容器・包装 : 同上

14. 輸送上の注意

特定の安全対策及び条件 : 輸送前に容器に破損、腐食、漏れ等のないことを確認する。転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。

15. 適用法令

消防法分類 : 危険物 第4類第2石油類（非水溶性液体）

労働安全衛生法

特定化学物質障害予防規則 : 該当しない

有機溶剤中毒予防規則 : 該当しない

ラベル表示対象物質 : 該当しない

SDS 通知対象物質 : 該当 No.168 鉱油

PRTR法（化学物質管理促進法） : 該当しない

毒物及び劇物取締法 : 該当しない

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 特別管理産業廃棄物（廃油）

16. その他情報

参考資料

1) ACGIH (2001)

2) IARC 45 (1989)

3) 安全データシートの作成資料 JIS Z 7253 : 2012

4) 製品安全データシート作成指針（日本化学工業会）

5) 独立行政法人製品評価技術基盤機構 GHS 分類結果データベース

6) 消防法関係法令集 社団法人 大阪市防火管理協会

★この「安全データシート（SDS）」の記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、法令の改正や新しい知見により改訂されることがあります。

本製品を取り扱う場合はこの記載内容を参考にして、使用者の責任において実態に即した適切な処置を講じて下さい。

本データシートは、安全や品質の保証書ではありません。

★この「安全データシート（SDS）」は JIS Z 7253 : 2012 に基づいて作成したものです。